

2014年の大雨

「平成26年8月豪雨」が発生し、全国各地で大雨

1. 概要

平成26年の梅雨入りは、九州南部と四国地方で平年並だったほかは、平年より早かった。梅雨明けは、沖縄地方と奄美地方で遅かったほかは、平年並だった。梅雨の時期の降水量は、沖縄地方、九州南部と関東甲信地方で多く、奄美地方ではかなり多かったが、近畿地方と東海地方ではかなり少なく、九州北部地方と中国地方も少なかった。

7月30日から8月26日にかけては、台風第12号及び台風第11号が相次いで日本列島に接近・上陸し、前線が日本付近に停滞するとともに、日本付近へ暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだため、四国地方をはじめとして各地で大雨となり、広島県広島市では集中豪雨による大規模な土砂災害が発生した（これらの大雨を「平成26年8月豪雨」と命名）。

また、7月には台風第8号及び梅雨前線の影響で、沖縄地方を中心に記録的な大雨となったほか、9月には大気不安定の影響で、北海道を中心に記録的な大雨となり、それぞれ土砂災害や、浸水害などが発生し、甚大な被害が生じた。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、気象台や測候所などの場合はその官署名を、アメダス地点の場合は都道府県名、市町村名及び地点名とした。

(1) 5月8日～5月9日：関東甲信地方から東北地方（大雨）＜大気不安定＞

5月8日から9日にかけて、上空に寒気を伴う低気圧の影響で大気の状態が不安定となり、中国地方から東北地方にかけて雨が降り、一部では雷を伴ったとこ

ろがあった。

この影響により、関東甲信地方や東北地方の一部では、停電や鉄道の運休などの交通障害が発生した。（被害の状況は、気象庁調べ）

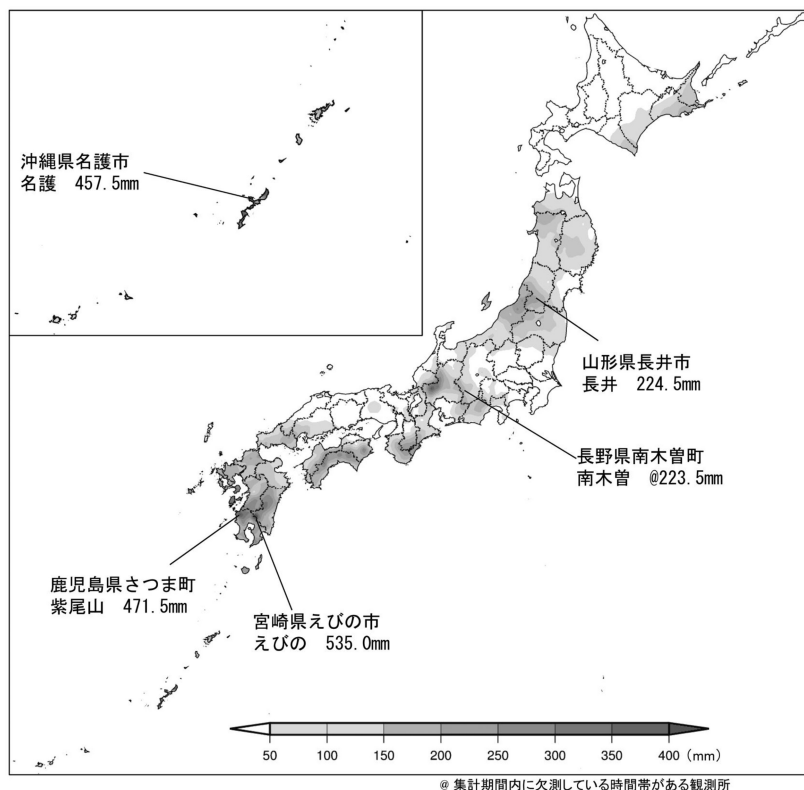
(2) 6月2日～7月20日：全国（大雨、暴風、高波、高潮）＜台風第6号、台風第7号、台風第8号、梅雨前線＞

6月2日から7月20日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、台風第6号、台風第7号及び台風第8号が日本に接近または上陸した。これらの影響で、各地で大雨となった。また、7月7日から11日にかけて日本に接近、上陸した台風第8号の影響等により、各地で暴風となったほか、南西諸島や西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に高波となり、一部で高潮となったところがあった。第1図に平成26年7月6日から11日までの総降水量分布図を示す。

この大雨等により、愛媛県、長野県及び福島県で合わせて死者3名となったほか、全国で合わせて浸水家屋2,000棟以上となるなど、各地で床上・床下浸水や、土砂災害による家屋損壊等の住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害等が発生した。（被害状況は、平成26年8月1日現在の内閣府の情報及び平成26年7月14日現在の国土交通省の情報による）

(3) 7月24日：関東地方（大雨）＜大気不安定＞

7月24日、朝鮮半島から本州付近にのびる前線と暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、関東地方の一部では雷雨となった。この影響で、関東地方南部では浸水被害や停電のほか、道路の通行不能等の交通障害が生じた。（被害の状況は、気象庁調べ）



第1図 総降水量分布図（期間：7月6日～11日）。

(4) 7月30日～8月26日：全国（大雨，暴風，高波，高潮，突風）＜台風第12号，台風第11号，前線＞

7月31日から8月11日にかけて，台風第12号及び台風第11号が相次いで日本列島に接近し，8月5日から26日にかけて，前線が日本付近に停滞した。また，7月30日から8月26日の期間を通じて，日本付近への暖かく非常に湿った空気の流れ込みが継続した。

これらの台風や前線等の影響で全国各地で連日大雨となった。また，台風第12号，第11号が接近・上陸した沖縄・奄美や西日本を中心に暴風や高波，高潮となった。このほか，台風の接近と前線の影響で，南から暖かく湿った空気の流れ込みが継続し，広い範囲で大気の状態が不安定となったため，山形県から宮崎県に至る10県で突風が発生した。特に茨城県，宮崎県，栃木県では，強さが藤田スケールでF1の突風が発生した。

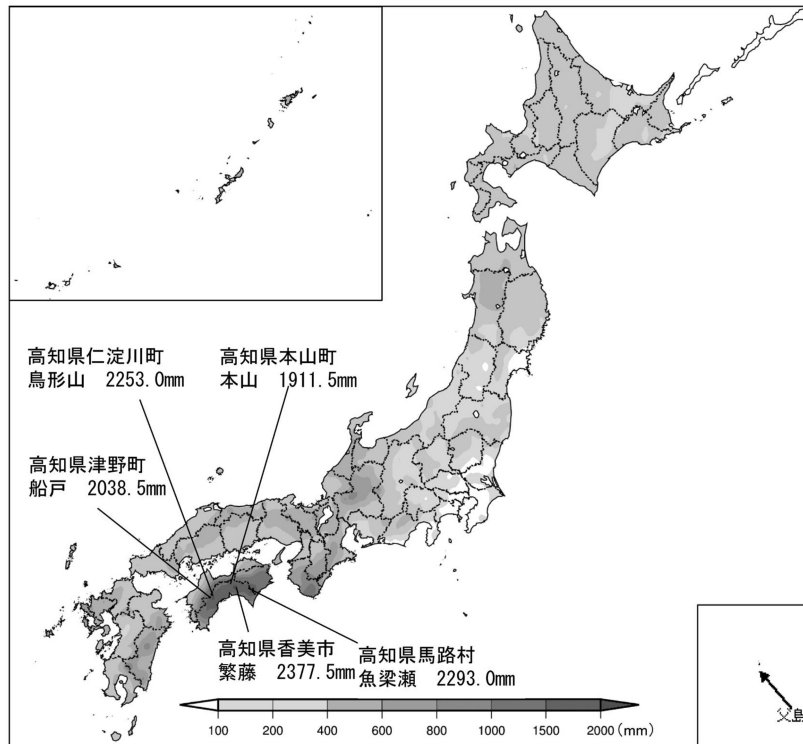
7月30日から8月26日までの総降水量は，高知県香美市繁藤で2377.5 mm，和歌山県古座川町西川で1172.0 mm，宮崎県えびの市えびので1141.5 mmと

析雨量を示す。

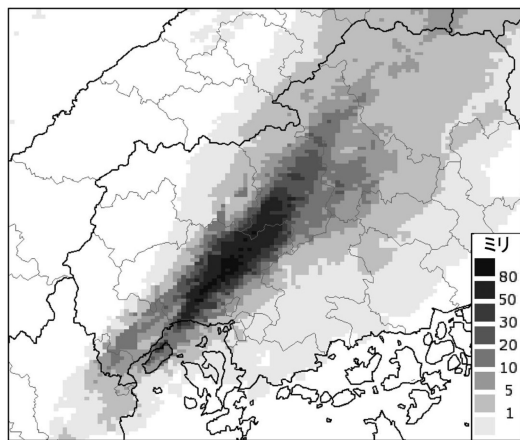
台風第12号が接近した7月31日から8月1日の間の最大風速は，鹿児島県奄美市笠利で29.7 m/s，沖縄県うるま市宮城島で24.3 m/sなど，沖縄・奄美で非常に強い風を観測した。また，台風第11号が接近・上陸した8月6日から11日の間の最大風速は，高知県室戸市室戸岬で42.1 m/s，和歌山県和歌山市友ヶ島で36.6 m/s，沖縄県北大東村北大東で32.3 m/sを観測するなど，沖縄地方や四国地方，近畿地方で猛烈な風を観測したほか，九州南部・奄美地方から東海地方を中心に非常に強い風を観測した。

この大雨や暴風等により，土砂災害，浸水害，河川の氾濫等が発生し，甚大な被害となった。台風第12号や台風第11号では，徳島県，山口県，島根県，和歌山県及び愛知県で死者6名の人的被害となり，四国地方を中心に全国各地で7,000棟を超える住家被害が生じた。また，8月15日頃からの前線による大雨では，福岡県，兵庫県，京都府，石川県，北海道で合わせて死者8名の人的被害となり，京都府や兵庫県を中心に，

なるなど，九州地方や四国地方，近畿地方で総降水量1000 mmを超える大雨となった。最大1時間降水量は広島県広島市三入で101.0 mmを観測するなど，九州地方から東海地方にかけて，1時間に80 mm以上の猛烈な雨を観測したところがあった。また，統計期間が10年以上の観測地点のうち，最大1時間降水量について20地点，最大3時間降水量について25地点，最大24時間降水量について26地点，最大48時間降水量について33地点，最大72時間降水量について22地点で，この大雨による観測値が観測史上1位を更新した。第2図に平成26年7月30日から8月26日までの総降水量分布図を，第3図に平成26年8月20日02時から03時までの広島県付近の解



第2図 総降水量分布図（期間：7月30日～8月26日）。



第3図 広島県付近の解析雨量（期間：8月20日02時～03時）。

全国各地で8,000棟を超える住家被害が生じた。さらに、8月19日から20日にかけては、広島県広島市で発生した土砂災害により、死者74名の人的被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、鉄道

の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。（被害状況は、非常災害対策本部及び内閣府の情報（平成26年11月6日現在）、国土交通省の情報（台風第12号・第11号について平成26年8月19日現在、8月16日から続く大雨等について平成26年11月5日現在）による）

7月30日から8月26日にかけて各地に甚大な被害をもたらした大雨について、気象庁は「平成26年8月豪雨」と命名した。

- (5) 9月6日～9月9日：
沖繩・奄美，四国地方，伊豆諸島（大雨，暴風，高波）＜台風第14号，前線＞

9月5日21時に沖繩の南海上で発生した熱帯低気圧

は北へ進み、7日03時に沖繩本島の東の海上で台風第14号となった。台風は本州の南海上を加速しながら北東へ進み、伊豆諸島に接近した後、11日03時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。

この台風や本州南岸にのびる前線の影響で、沖繩・奄美から関東甲信地方にかけて雨が降り、沖繩・奄美や四国地方、伊豆諸島では大雨や暴風となったところもあった。また、伊豆諸島では大しけとなったところもあった。

- (6) 9月9日～9月12日：西日本から北日本（大雨）＜大気不安定＞

9月9日から12日にかけて、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となったため、西日本から北日本にかけて雷を伴って猛烈な雨が降った。特に北海道では記録的な大雨となったところがあった。

9月9日から12日までの総降水量は、北海道千歳市支笏湖畔で380.0 mm となるなど、9月の月降水量の平年値を上回る大雨となったほか、最大1時間降水量が北海道苫小牧市苫小牧で100.0 mm となるなど、猛

烈な雨を観測した。第4図に北海道における平成26年9月9日から12日までの総降水量分布図を示す。

この大雨により、土砂災害、浸水害等が発生し、近畿地方や関東地方、東北地方や北海道で合わせて200棟を超える住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、道路の通行不能や鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成26年9月16日現在の内閣府及び国土交通省の情報による)

- (7) 9月21日～9月25日：
沖繩・奄美から東北地方(大雨，暴風，高波) <台風第16号，前線>

9月17日21時にフィリピンの東の海上で発生した台風第16号は、21日夜から22日朝にかけて、東シナ海に入り、23日に中国東部に上陸した後、東に進路を変えた。台風は、24日09時にチェジュ島の西の海上で温帯低気圧に変わった後、前線を伴って日本海に進み、25日15時に本州付近で消滅した。また、前線が、九州の南海上から九州付近に北上した。この台風や台風から変わった温帯低気圧、前線の影響で全国的に雨となり、九州地方から東北地方にかけての一部では大雨となったところがあった。また、沖繩・奄美や西日本の太平洋側では一部で暴風となったところがあり、沖繩地方では大しけとなったところがあった。

この影響により、沖繩県では船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、鹿児島県では土砂災害や、住家の浸水被害が発生したところがあった。(被害の状況は、気象庁調べ)

- (8) 10月4日～10月6日：全国(大雨，暴風，高波，高潮) <台風第18号>

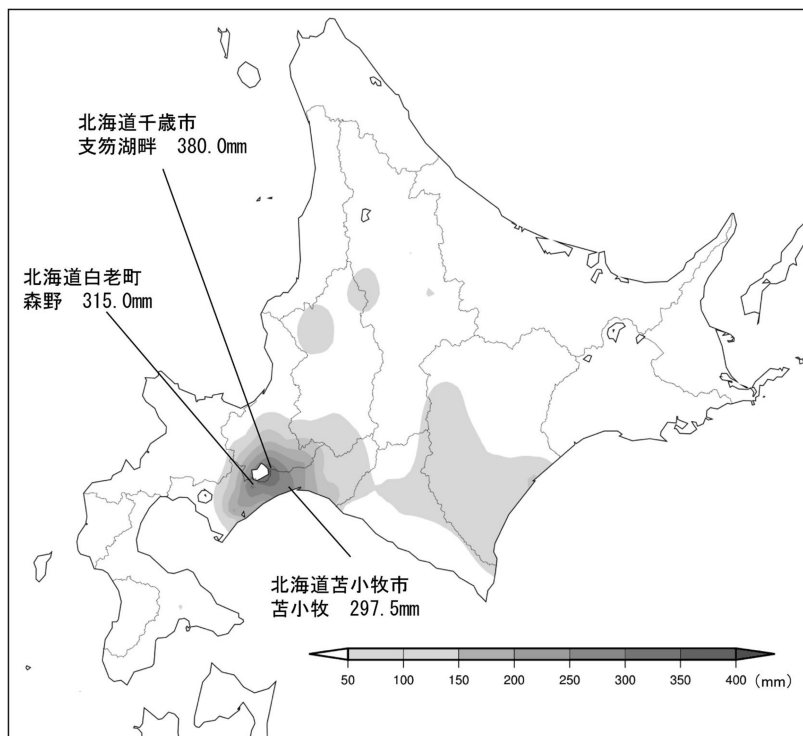
9月29日15時にグアム島の東の海上で発生した台風第18号は、発達しながら日本の南海上を北上し、大型

で非常に強い勢力で南大東島の近海を通過して10月5日には九州の南海上に達した。台風は、その後、進路を東寄りに変え、大型で強い勢力を維持したまま潮岬の南を通過して、6日08時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、09時半頃に静岡県沼津市付近に再上陸した。台風は速度を速めながら東海地方及び関東地方を北東に進み、6日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風と本州付近に停滞した前線の影響で、東日本太平洋側を中心に大雨となった。また、沖繩・奄美と西日本・東日本の太平洋側を中心に暴風となり、猛烈なしけとなった。

10月4日から6日までに観測された総降水量は、静岡県伊豆市天城山で489.0 mm、山梨県南部町南部で419.5 mm など、東日本太平洋側を中心に400 mm を超えたほか、関東地方や東海地方では、統計期間が10年以上の観測地点のうち9地点で、最大24時間降水量が観測史上1位の値を更新した。

風については、静岡県南伊豆町石廊崎で32.2 m/s、鹿児島県屋久島町屋久島で31.7 m/s の最大風速を観



第4図 総降水量分布図(期間：9月9日～12日)。

測するなど、各地で暴風を観測した。

高潮については、台風第18号の接近・通過が満潮時間帯と重なったため、和歌山県串本町と沖縄県南大東村では過去に記録した最高潮位を上回る高い潮位を観測した。

この台風の影響で、土砂災害、浸水害等が発生し、神奈川県、千葉県及び茨城県で死者6名、行方不明者1名となったほか、静岡県や関東地方を中心に住家被害が生じた。その他、停電、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成26年11月6日12時現在の内閣府の情報及び、平成26年10月7日14時現在の国土交通省の情報による)

(9) 10月10日～10月14日：全国（大雨，暴風，高波，高潮）＜台風第19号＞

10月4日03時にポンペイ島の北西の海上で発生した台風第19号は、沖縄の南海上に北上し、12日00時半頃に大型で強い勢力で沖縄本島付近を通過した。その後台風は、東シナ海で進路を北東に変え、13日08時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸し、14時半頃に高知県宿毛市付近に再上陸した後、19時半頃に淡路島付近を通過し、20時過ぎに大阪府泉佐野市付近に再上陸した。台風は、速度を速めながら近畿地方、東海地方、関東甲信地方、東北地方を進み、14日09時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。また、日本の南海上に前線が停滞した。

台風や前線の影響により、沖縄・奄美と西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に大雨となった。また、全国的に暴風となり、沖縄・奄美や西日本・東日本の太平洋側を中心に猛烈なしけや高潮となった。

10月10日から14日までに観測された総降水量は、沖縄県国頭村国頭で557.5 mm、宮崎県美郷町神門で

522.0 mm など、沖縄・奄美と西日本太平洋側を中心に400 mm を超えた。また、日降水量でみると、沖縄・奄美の多いところで500 mm を超えたほか、西日本から東日本の太平洋側の多いところで300 mm を超えるなど、各地で日降水量が100 mm を超える大雨となった。

風については、沖縄県うるま市宮城島で35.1 m/s、鹿児島県和泊町沖永良部で30.9 m/s の最大風速を観測するなど、沖縄地方や九州南部・奄美地方で猛烈な風を観測したほか、西日本から北日本にかけて非常に強い風を観測した。

この台風の影響で、土砂災害、浸水害等が発生し、愛媛県、鳥取県で死者3名となったほか、近畿地方や宮城県を中心に床上・床下浸水などの住家被害が生じた。その他、停電、水道被害、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成26年11月6日12時現在の内閣府の情報及び、平成26年10月14日13時現在の国土交通省の情報による)

(10) 11月4日～11月7日：伊豆諸島，小笠原諸島（大雨，暴風，高波）＜台風第20号＞

10月31日09時にグアム島の西の海上で発生した台風第20号は、フィリピンの東の海上で進路を北東に変え、加速しながら伊豆諸島の南を進み、11月7日03時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わった。

この台風と日本の南海上に停滞する前線や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところがあった。また、小笠原諸島や伊豆諸島、関東地方の一部では強風となったところがあり、小笠原諸島では猛烈なしけとなった。

(気象庁予報部予報課)